

1. 取組主体

名称：西尾市立寺津小学校

担当窓口：担当課（者） 高橋正治 校長

住所：西尾市巨海町若宮西25番地1

電話：0563-59-6531・FAX：0563-59-6742

E-mail：intraj10@intra.city.nishio.aichi.jp

団体等の種類：学校

構成員数：29人（教職員数）

活動内容を紹介するHP、情報誌等の有無：(有)・無

HPアドレス：http://intra.intra.city.nishio.aichi.jp/terazu-sho/index.htm

連携している団体等の有無：(有)・無

→（有の場合）連携している団体の属性（複数回答可、主な団体等のみ）

(市町村) (学校) (農林漁業者) (JA) その他（ ）

2. 地域の特徴

西尾市は、愛知県のほぼ中央南部の矢作川下流に位置し、土壌は矢作川により堆積した肥沃な沖積土壌で、三方を丘陵地、一方を海に囲まれている。

農業は、古くから抹茶の原料となる「てん茶」の生産が盛んで全国有数の生産量を誇る。その他植木や花きの生産も盛んである。

3. 取組開始時期・経緯

<平成8年度>

校区内の専業農家の水田で米の栽培の取組を開始。当初はアイガモ農法により米の栽培に取り組む。現在は、有機農法により米を栽培。

<平成11年度>

愛知県教育委員会の「食に関する指導」モデル校の委嘱を受けたことがきっかけとなり栽培活動の他、「食育」の取組を開始。

以後5年間を総合的な学習の中核として位置づけ実践研究に取り組んだ。

<平成16年度～>

文部科学省研究開発学校（3カ年）の指定並びに西尾市教育委員会研究委嘱を受け、寺津中学校と連携し小中一貫の学習指導要領によらない独自のカリキュラムとして、「食育科」を新設。食育科の年間授業時間を小学1年は51時間、2年は53時間、3・4年は各60時間、5年から中学1年は各70時間、中学2・3年は各35時間と設定し、各学年毎にテーマを設けて研究実践を進めている。

栽培活動は、小学1年から6年までの6年間であるが、生涯にわたる健康な心身をつくるために、9年間を通して「心」「実践力」「知識・理解」を育てる系統的な学習が必要であるとしている。

4. 目的（目標）

新設された「食育科」では、小中一貫の9年間を見通した教育課程を編成し、緩やかな「4・3・2」制を取り入れている。

教科目標としては、「体験的な活動を通して、正しい食事のあり方を理解し望ましい食習慣を身につける。さらに、食事を通して自ら健康管理ができるようにするとともに、生涯にわたって健康的な生活を営もうとする態度を育てる。」ことが掲げられている。

具体的には、小学1から4年の4年間では、野菜の栽培・収穫・調理などを通じ、食に携わる人々や命を食していることに対する感謝の気持ちを育てる。また、好き嫌いなく食事をする事の大切さを理解させるとともに、健康と栄養の関係にも気づかせることを目標としている。

小学5年から中学1年までの3年間のうち、5年生では米の栽培・収穫の他、お米中心の献立を考え調理を行い、小学6年では大豆の栽培・収穫・みそ造りを実施。中学1年では自分と食、家族とのふれあいの食事をテーマに、自分や家族の食生活を栄養面や文化面から見つめ直し、日本型食生活への理解を深め、基本的な調理の技能を身につけ、よりよい食生活を求めて改善しようとする実践的な能力を育てることを目標としている。また、小学校で自分たちがつくったみそを中学の調理実習で利用している。

中学2・3年になると、農業体験はないものの視野を世界や環境に広げ、多くの人々の努力や自然の恵みによって、豊かな食生活が営めることに感謝するとともに世界の食文化を大切にしようとする気持ちを育てる。また、食品の安全性について正しい情報を得る方法を知り、適切に食品選択ができる判断力や実践的な態度を身につけさせることを目標にしている。

5. 対象作物・参加者・経費

〈対象作物〉

①米、②野菜、果実、畜産物、魚介類、きのこ、その他

→具体的な作物名・種類（大豆、夏野菜、冬野菜、ごまなど学年により異なる）

〈参加者数〉

小学1年～6年（429名）

〈経費〉

平成18年度については以下のとおり

- ・西尾市：研究委嘱費 40万円（発表会等も含め）
- ・西尾市：特色ある学校づくり 50万円
- ・文部科学省：研究開発費 130万円（うち、「食育」としての使用は10万円程度（小・中あわせ））

6. 具体的な取組内容

概要（関係者の連携方法・地域との関わり等含む）

- ・5年生で取り組む米の栽培については、「ふるさと先生」として地域の専業農家を指導者とし、学校に隣接する水田で栽培を実施。
- ・1年生の大豆、2年生の夏野菜・冬野菜、3年生のさつまいも、4年生のごまなど他の学年についても、「ふるさと先生」を指導者として取組を実施。

〈17年度〉

- ・教育ファームに該当する取組は、小学校の6年間であるが、小学1年から中学3年までの各学年が、食育年間指導計画に基づき取組を実施。

〈年間カレンダー〉

別紙参照

〈18年度〉

- ・17年度 of 取組内容に同じ。
(平成18年度の4年生の栽培作物は、「ごま」とした。)

7. これまでの成果

平成11年度のモデル校以降、農作業の体験を含めた「食に関する指導」さらには、教科としての「食育」を継続して実施したことにより、

- ・朝食を毎日食べる児童：89%（H11）→94%（H18）。
- ・朝食を食べることは楽しいと答えた児童：35%（H11）→75%（H18）に増加している。

また、中学校では、市内の6中学校の2年生に「給食を全部食べていますか」の質問に対し、他校の生徒の55%が「全部食べる」と答えたのに対し、寺津中学では100%であった。

8. 今後の構想、課題

平成16年度からの文部科学省指定研究開発学校は18年度で終了するが、19年度以降も授業としての「食育」の実施を申請、継続していく予定。

今後は、毎日朝食を食べる児童を100%とするために、毎日朝食を食べていない6%の児童にどのように働きかけるかという課題の他、主に以下の課題がある。

- ・発達段階に応じた学習内容と年間指導計画の見直し
- ・栽培や調理といった体験的な活動における身につけさせたい学習内容の明確化
- ・授業における栄養教諭の効果的な登場場面の工夫と、学級担任との関わり
- ・子どもたちの興味・関心を喚起し、学習を深められる教材の開発
- ・評価方法と評価基準を検討に加え、より妥当な評価計画の作成などがあげられる。

9. その他

年1回研究発表が行われており、全国から教育関係者が集まる(18年度は11月に開催)。
HPについては、学校のHPの他、下記サイトにおいても取り上げられている。

読売新聞のサイト

: <http://syokuiku.yomiuri.co.jp/0705.htm>

JA西三河のサイト

: <http://www.ja-nishimikawa.com./top/news/0606index.htm>

(6) 学年別年間指導計画

小学校 第1学年 食育年間指導計画 (51時間)
 テーマ 「 きゅうしょく だいすき 」

月	学 習 活 動	指導上の主な手だて
4	<p>きゅうしょくだいすき① 6時間</p> <p>○給食はだれが作っているのかな ・調理員さんにあいさつに行こう ・準備・後片づけをしっかりとしよう</p> <p>○楽しく給食を食べよう ・食べる前に気をつけること 手洗いと身じたく ・会食のマナー、食器の置き方を守ろう ・楽しく味わおう、交互に食べよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理員さんに給食を作る時の気持ちを話してもらおう。 ・給食の前の時間、後の時間を使う。 ・食べる順番や食器の返し方を指導する。 ・交互食べがバランスよく食べることになることを栄養教諭が話す。 ・栄養教諭が給食の食材を見せながら行う。 ・げんきっこの働きを知らせる。 ・給食は3つのげんきっこがたくさん入っていることに気づかせる。 ・ふる里先生に大豆の育て方を教えてもらう。 ・芽や花を観察させる。 ・夏休み中も大豆に目がいくようにさせる。 ・枝豆を少しとり、ゆでて食べさせる。 ・だれと食べたかななどを思い出させながら楽しくかかせる。 ・栄養教諭が大豆の栄養について話す。 ・大豆でできている物のパッケージを集めさせる。 ・栄養教諭の指導で大豆から豆腐、きなこなどの食品作りをさせる。 ・できたてのへんしんだいずを味わわせる。 ・家の人と大豆を使った料理作りを経験させる。 ・模型を使って、正しいはしの持ち方がわかるようにさせる。 ・自分でカードを作り、遊びを通して、げんきっこの定着をはかる。
5	<p>げんきっこがいっぱい① 8時間</p> <p>○どうして食べるのかな ・黄のげんきっこは強い力をつくる ・赤のげんきっこは体を丈夫にする ・緑のげんきっこは病気から守ってくれたり、いいうんちが出るお手伝いをする (「げんきっこのうた」)</p> <p>○給食の中のげんきっこを見つけよう ・赤、黄、緑のげんきっこに分けてみよう</p>	
6	<p>へんしんだいず① 10時間</p> <p>○2年生からのプレゼントの大豆をまこう ・大豆は赤のげんきっこだよ ・どんな芽が出るのかな</p> <p>○もやしを作ってみよう</p>	
7	<p>○大豆を育てよう ・芽が出たよ ・花がさいたよ ・枝豆ができたよ</p> <p>○枝豆を食べてみよう ・あまくておいしかったよ</p>	
9	<p>げんきっこがいっぱい② 3時間</p> <p>○朝ごはんにはげんきっこは入っているかな ・今日の朝ごはんを絵でかいてみよう ・3つのげんきっこに分けてみよう</p>	
10	<p>へんしんだいず② 13時間</p> <p>○大豆を収穫しよう ○大豆の栄養について知ろう ・大豆は畑のお肉で赤のげんきっこなんだね</p>	
11	<p>・豆腐はへんしんだいずなんだね ・大豆は何に変身するのかな ・家にあるへんしんだいずを調べよう ・調べたことを発表しよう</p> <p>○へんしんだいずを作ろう</p>	
12	<p>・豆腐、きな粉、豆乳、おから、湯葉、油揚げ、生揚げ 節分豆ができたよ ・みんなに知らせよう (「だいずのうた」)</p> <p>○大豆を使った料理を作ろう ・お家の人と大豆料理を考えよう ・お家の人と一緒に大豆料理を作ろう ・大豆先生に感謝しよう</p>	
1	<p>きゅうしょくだいすき② 5時間</p> <p>○はしを正しく持っているかな ・うまくつかめないよ</p>	
2	<p>○大豆をはさんでみよう ・大豆を上手につかもう</p>	
3	<p>げんきっこがいっぱい③ 6時間</p> <p>○げんきっこカードを作ろう ・赤・黄・緑のげんきっこをカードにかこう</p> <p>○カードで遊ぼう ・間違えずに言えるかな ・家の人とやってみよう</p>	

小学校 第2学年 食育年間指導計画 (53時間)
 テーマ 「 やさい だいすき 」

月	学 習 活 動	指導上の主な手だて
4	<p>たのしいきゅうしょく① 3時間</p> <p>○食事のマナーを身につけよう ○友達と仲良く食べよう ○よくかんで食べよう</p> <p>なつやさい だいすき 20時間</p> <p>○野菜の種類を調べよう ・どんな野菜があるかな ・好きな野菜、嫌いな野菜 ・夏野菜はどれ？ ○夏野菜を育てよう ・育てたい野菜を決めよう ・苗を買いに行き、植えよう ・苗の違いを観察しよう ・ふる里先生に世話の仕方を教えてもらおう ・野菜の世話をしよう ・野菜の花や実の違いを観察しよう</p>	<p>・給食の配膳や食べている時の態度を振り返らせる。</p> <p>・知っている野菜の絵をかかせる。 ・主に夏にとれる野菜を見つけさせる。</p> <p>・保護者の中から、野菜作りに詳しいふる里先生を募る。</p> <p>・育てる野菜とその野菜に決めた理由を発表させる。</p>
5	<p>○「味わう五感(目・口・鼻・舌・耳)」+心を働かせて野菜を味わおう ・五感をはたらかせて味わう方法を知ろう ・新鮮野菜と古い野菜を比べよう ・おすすめのメニューを紹介しよう</p>	<p>・ふる里先生の話聞かせる。 ・植えた苗をよく見て野菜日記を書かせる。</p> <p>・栄養教諭が五感をはたらかせて味わう方法を教える。 ・五感を働かせて、いろいろな野菜を食べさせる。</p>
6	<p>○育てた夏野菜で料理を作ろう ・包丁で切ってみよう ・お家の人と一緒に料理しよう</p>	<p>・エプロンと三角巾を用意する意味を教える。 ・簡単にできる料理を考えさせる。 ・ちくわやはんぺん、ハムなどを準備する。</p>
7	<p>いろいろなげんきっこ 3時間</p> <p>○加工品のげんきっこを考えよう ・ちくわ・はんぺんなどのげんきっこを考えよう ・おでんに入っているげんきっこを調べよう。</p>	
9	<p>ふゆやさい だいすき 20時間</p> <p>○冬野菜を調べよう ・種類、収穫の時期を知ろう ○冬野菜を育てよう ・育てたい野菜を決めよう ・種を選ぼう ・ふる里先生に聞いて、種をまこう ・野菜の世話をしよう ・間引いた苗を食べてみよう</p>	<p>・主に冬にできる野菜に関心をもたせる。</p> <p>・種を選ばせる。 ・ふる里先生から種のまき方を聞く。 ・間引く理由を考えさせる。</p>
10	<p>○野菜のどこを食べているのか調べよう ・野菜の根・茎・葉・実のどこかな ○野菜パワーを調べよう ・野菜を食べるとちゃんとうんちが出る ・野菜を食べると病気になる ・かぜをひかない ・体の調子を整える</p>	<p>・根・茎・葉・実のどこを食べているのか考えさせる。 ・野菜を食べるとどうして体にいいのかを知らせる。 ・いろいろな面から野菜の良さを考えさせる。</p>
11	<p>○育てた野菜で料理を作ろう ・おでんにして食べよう</p> <p>たのしいきゅうしょく② 2時間</p> <p>○はしを正しく使おう ・はしを正しく持って給食を食べよう ・はし使いを知ろう</p>	<p>・保護者に参加を呼びかける。</p> <p>・はしの正しい持ち方を大型模型で見せる。 ・ばっかり食べ、「L字」食べを知らせる。 ・バランスの良い食べ方を考えさせる。</p>
12	<p>すごいぞ やさいパワー 5時間</p> <p>○野菜のクイズや歌を作ろう ・全校に知らせよう</p>	<p>・野菜のパワーを知らせる方法を考えさせる。</p>
1		
2		
3		

小学校 第3学年 食育年間指導計画 (60時間)
 テーマ 「長生きできる食事」

月	学 習 活 動	指導上の主な手だて
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 長生きのひみつをみつけよう 20時 </div> <p>○おじいちゃん・おばあちゃんに取材しよう（食事面・生活面）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞きたいことを書かせたインタビュープリントを準備する。 ・宅老所の方と連絡を取り訪問時間を決める。 ・聞いてきたことを絵カードをポイント化したグラフで、お年寄りの食事や生活の傾向に気づかせる。 ・製茶工場に見学に行き、お茶に興味をもたせる。 ・お茶は五感を使って、味わわせる。 ・さつまいもを栽培する。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のおじいちゃんおばあちゃんに聞いてみよう ・地域にある老人施設を訪問してお年寄りに聞いてみよう 	
6	<p>○お年寄りと自分の生活を比べてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りのよく食べる物や飲む物をまとめよう 	
7	<p>○お茶のパワーを調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶の良さを知ろう ・お茶の入れ方を調べて飲んでみよう 	
9	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 昔のおやつのよさを知ろう 20時間 </div> <p>○さつまいもを育てよう</p>	
10	<p>○昔と今のおやつを比べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔のおやつを調べよう ・自分たちがよく食べるおやつを調べよう 	
11	<p>○昔のおやつを食べてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほしいもやかきもちを食べてみよう ・さつまいものパワーを調べよう 	
12	<p>○昔と今のおやつの違いを考えよう</p> <p>○かむことの大切さを知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かたい物とやわらかい物を食べる時のちがいをみつけよう ・かむことの良さを調べよう ・保健の先生に話を聞こう 	
1	<p>○昔のおやつを作ってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔のおやつをアレンジしたおやつを考えよう ・おやつ作りの計画を立てよう ・おやつ作りをしよう 	
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 長生きできる食事を見つけよう 20時間 </div> <p>○お年寄りや自分たちの食事を3つの食品グループに分けてみよう</p>	
3	<p>○お年寄りと自分の食事を比べてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りや自分たちの食事を3つの食品グループに分けてみよう 	
4	<p>○体によいものを食べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マゴワヤサシイ」の食品について知ろう ・野菜の働きについて調べよう 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・海産物の働きを知ろう 	
6	<p>○寺津ののりすきを体験しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協の人にのりすきを教えてもらおう ・のりパワーを知ろう 	

第二章

その他の事例
 学校

小学校 第4学年 食育年間指導計画 (60時間)
 テーマ「自分の体を見つめよう」生活習慣病を予防しよう

月	学 習 活 動	指導上の主な手だて
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 自分のおやつを振り返ろう 10時間 </div> ○おやつ調べをしよう ・おやつは甘いものや油っぽいものが多いね ・おやつを好きなだけ食べたら体はどうなるかな	<ul style="list-style-type: none"> ・食べたもの、飲み物、回数、量、食べた時間を記録させる。 ・太ることと健康との関係について、家の人や身近な人に聞きとりさせる。 ・食事面だけでなく、生活面にも目を向けさせる。
5	○太ると体に悪いことがあるのかな ・本で調べたり、家の人や養護教諭に聞こう ・太ると動きにくいよ ・いろいろな病気になりやすいよ ・生活習慣病になっちゃおうよ	
6	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 生活習慣病ってなあに 8時間 </div> ○病気の内容を知ろう ・調べてみよう (肥満、糖尿病、高血圧、高脂血症、動脈硬化) ○病気の原因を知ろう ・調べてみよう (食事面…食べ過ぎ、偏食、塩分・脂肪分・糖分のとりすぎ、無理なダイエット) (運動面…運動不足) (休養面…睡眠不足、ストレス) (その他…たばこの吸い過ぎ、お酒の飲み過ぎ)	
7	○病気の予防法を知ろう ・病気の予防には食事、運動、休養が大切だね ・生活習慣病ってこわい病気だね ・いろいろな原因があるんだね ・私たちの生活を見直してみよう ☆ごまの栽培にチャレンジしよう	
9	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 体にやさしいおやつを見つけよう 28時間 </div> ・おやつは間食だよ ・食べると楽しいよ	
10	・自分のおやつを振り返ってみよう ○健康によいおやつの選び方を考えよう ・ジュースに入っている砂糖の量を調べよう ・スナック菓子には塩や油が多いよ	
11	・砂糖、塩、油の体への影響を知ろう ○健康によいおやつを見つけよう ・生活習慣病にならないおやつの食べ方を考えよう ○おやつのとり方を工夫しよう	
12	○手作りおやつにチャレンジしよう	
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> サラサラ血液にしよう 14時間 </div> ○血液検査はなぜするの ○食事調査をしよう	
2	○血液サラサラにチャレンジ ・食事が原因で起きる生活習慣病は食事を直さないといけないんだね ・健康な体のためには野菜をとることが大切なんだね ・魚と野菜をしっかりとらないといけないね ○塩分を減らすためにだしを上手に使ってみよう ○血液サラサラメニューを考えよう ・ごま、野菜、魚の調理にチャレンジしよう	
3	・薄味に挑戦するよ ・給食の献立に加えてもらおう	

小学校 第5学年 食育年間指導計画 (70時間)
 テーマ「米作りから考えよう 安全・安心な食事」

月	学 習 活 動	指導上の主な手だて
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">有機米を作ろう 18時間</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;">有機米って何だろう 12時間</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふる里先生の指導で米作りを進める。 ・できるかぎりの作業を自分たちでも行い、米作りの大変さを実感させる。 ・米の表示の見方を知らせる。 ・社会科の米作りとの関連を考えて進める。 ・お米にいろいろな種類があることを知らせる。 ・有機米と普通米の作り方の違いを知らせる。 ・東海農政局の出前講座を活用する。
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ふる里先生に教えてもらおう ・もみまきして苗を作ろう ・肥料入れをしよう ・泥リンピックで代かきをしよう ・田植えは大変だね ・かかしを作ろう ・稲の観察をしよう 	
6	<ul style="list-style-type: none"> ○有機米を知ろう ・わが家のお米を知ろう ・お米はどのようにして作られるのかな ○ごはんの食べ比べをしよう ・有機米と普通米の違いを調べよう ○有機米を調べよう ・有機米の良さを発表しよう ・有機米についてまとめよう 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて稲刈りをするよ 	
9	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ごはんを主食とした献立を考えよう 14時間</div>	
10	<ul style="list-style-type: none"> ○米の特徴や良さを知ろう ・育てた米の良さを調べよう ・口中調味を知ろう ○ごはんには合う献立を考えよう ・ごはんの相性の良いおかずは何だろう ・ごはんの炊き方とみそ汁の作り方を知ろう ・作ったごはんのみそ汁の栄養バランスを考えよう ・給食を6つの食品群に分けよう ・ごはんは6つの食品群に分けよう ・考えた献立で料理を作ろう ○米食の良さを広めよう ・ごはんには合う献立を広めよう 	
11	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ふる里の味 郷土料理を大切にしよう 12時間</div>	
12	<ul style="list-style-type: none"> ○各地の郷土料理を知ろう ・みそ汁も地域によって違うね ・みそマップを作ろう ・郷土料理は、昔から食べ続けられているものだね ○郷土料理について調べよう ・三河地方の郷土料理の良さや工夫を調べよう ・お年寄りの話を聞こう ・米食は栄養バランスが良いことを知ろう ○郷土料理を取り入れよう ・みそを使った郷土料理を作ろう ・郷土料理についてまとめよう 	
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">食べ物の安全を考えよう 14時間</div>	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○加工食品の安全を考えよう ・どんなものが使われているのかな (食品添加物) ・着色料はどんなものに使われているの (着色実験) ・保健所の人に話を聞こう ・食品の安全性や選び方を考えよう ○安全な食べ方を考えよう ・食品の安全とはどういうことかな ・ゆでたり、よく洗ったりするといいか ・有機肥料を使うとどんな点がよいか振り返ろう ・どの程度の農薬なら安全だろうか ○みんなに知らせよう ・食品の安全について発表しよう ・作った有機米をみんなにふるまおう ・ふる里先生に感謝しよう 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・玄米、胚芽米、白米を食べ比べさせて、つき方による味の違いを感じさせる。 ・家での調理の工夫を聞き取りさせる。 ・給食を基にして、3つの食品群から6つの基礎食品群に分けさせる。 ・6つの基礎食品群を意識させて献立を考えさせる。 ・食生活学習教材を活用する。 ・食べたことのある郷土料理を話題にして、興味をもたせる。 ・ごはんには合う郷土料理としてみそ料理に焦点をあてて調べさせる。 ・郷土料理の良さを考えさせる。 ・お年寄りに郷土料理の話をしてもらい、昔の料理の良さを確認させる。 ・保健所の出前講座を活用する。 ・塩分や着色料、食品添加物に関心をもたせる。 ・自分たちが作った有機米について発表する。 	

小学校 第6学年 食育年間指導計画 (70時間)
 テーマ 「 自分と食をみつめよう 」

月	学 習 活 動	指導上の主な手だて
4	1日の生活と食事を振り返ろう 5時間 ○1日の生活リズムと食事時間・内容・量を振り返って、問題を見つけよう	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の時間の使い方を図に表すことで、自分の食生活を生活行動とともに振り返らせる。 ・朝食の大切さについて生活や行動をもとに考えさせる。 ・食事バランスガイドを栄養教諭が教える。 ・自分の朝食のバランスを確かめる。 ・朝食を食べることで得られるパワーについて考えさせる。 ・朝食パワーについてサーモグラフィなどの資料を読み取らせる。 ・短時間で栄養バランスのとれた朝食を作らなければならないことに気づかせる。 ・朝食を作ってくれる家族に感謝する気持ちをもたせる。 ・工夫で理想の朝食に近づけることに気づかせる。 ・夕食を作ってくれる家族に感謝の気持ちをもたせる。 ・朝食、昼食よりも時間がとれることに気づかせる。 ・夕食に合う献立作りをさせる。 ・家族を思いやる気持ちをもたせ献立を作成させる。 ・地域でとれる食材にも目を向けるようにする。 ・食生活学習教材を活用する。 ・行事食には自然の恵みへの感謝、家族の幸せへの願い、健康への知恵が込められていることを知らせる。 ・箸の文化についても調べさせる。 ・大勢で食べるときのマナーにも目を向けさせる。 ・できた味噌は、中学校で使うことを話す。
5	よりよい朝食を考えよう 20時間 ○朝食にかける時間を考えよう ・1週間の朝食を調べよう ・自分に合った朝食時間を考えよう ○朝食の内容を考えよう	
6	・1週間の朝食の内容を調べよう ・主食・主菜・副菜を知ろう ・生活習慣病の予防になるんだね ☆朝食のみそ汁で使う味噌づくりのための大豆を育てよう ○自分に合った朝食の量を考えよう	
7	・1週間の朝食の量を調べよう ・朝食パワー（朝食の役割）を調べよう ・自分に合った朝食の量を考えよう 自分で朝食を作ってみよう 15時間	
9	○パワーアップ朝食を考えよう ・自分の朝食を見直し、バランスのよい朝食を考えよう ○パワーアップ朝食を作ろう ・朝食作りの計画を立てよう ・基本的な調理方法を知ろう ・自分のパワーアップ朝食を作ろう	
10	・パワーアップ朝食献立コンテストをしよう 夕食を考えよう 12時間 ○夕食作りを手伝おう ・手伝いをして気づいたことを発表しよう	
11	○夕食の特徴をまとめよう ○夕食の献立を考えよう ☆大豆の収穫をしよう	
12	健康メニューを考えよう 5時間 ○生活習慣病の予防や体の調子を考えたメニューを考えよう ・カルシウムを含んだメニュー作りを意識しよう	
1	行事食を味わおう 13時間 ○行事食を調べよう ・和食の盛りつけや味付けを知ろう	
2	○和食のマナーを覚えよう ・マナーを守って食事をしよう	
3	☆味噌づくりをしよう	

1. 取組主体

名称：高島市立朽木西小学校

担当窓口：担当課（者）地村 卓

住所：高島市朽木中牧187

電話：0740-38-5054・FAX：0740-38-5058

団体等の種類：学校

構成員数：教職員 6人

活動内容を紹介するHP、情報誌等の有無：(有)・無

HPアドレス：<http://www.city.takashima.shiga.jp/kutsuki-wes/index.htm>

連携している団体等の有無：(有)・無

→（有の場合）連携している団体の属性（複数回答可、主な団体等のみ）

市町村、学校、(農林漁業者)、JA、(その他) (NPO法人朽木針畑山人協会)

2. 地域の特徴

本校は、琵琶湖の西端 朽木溪谷の安曇川源流「針畑川」の溪谷に位置し、西は百里ヶ岳と三国岳を境として福井県と京都府に、南は大津市に隣接し、周りを標高600～900メートルの山々に囲まれた中で、92戸、194名が居住しており、住民の平均年齢は高い。

地域には文化・公的施設がなく、本校が唯一公的施設であり、文化センター的な役割を担っている。そのためか住民の学校への関心度は高く、子どもは少ないもののほとんどの方がPTAの準会員となり、大変協力的である。特に学校行事は地域挙げてのものとなっており、地域住民の活力の源となっている。

3. 取組開始時期・経緯

平成14年から総合的な学習の時間における取り組みとして、保護者のご協力で、土地を借用できることとなった。

4. 目的（目標）

実際の農業体験をさせることにより、収穫までの苦勞、作物を育てる体感をすることにより、日常の食生活を見直す一助としたい。

5. 対象作物・参加者・経費

〈対象作物〉

(米) 野菜、果実、畜産物、魚介類、きのこ、その他

〈参加者数〉

全校生徒の取組 16年度9名、17年度8名、18年度7名

〈経費〉

高島市田んぼの学校推進事業活用

約90,000円（苗肥料代、土地借用料、講師謝金、燃料費等）

6. 具体的な取組内容

概要（関係者の連携方法・地域との関わり等含む）

5月 田植え

（NPO法人朽木針畑山人協会や地域の方の協力）

7月 草取り 田んぼの生き物観察

（琵琶湖博物館主任学芸員理学博士：楠岡泰氏）

9月 稲刈り

（NPO法人朽木針畑山人協会や地域の方の協力）

10月 脱穀・ 粳摺り

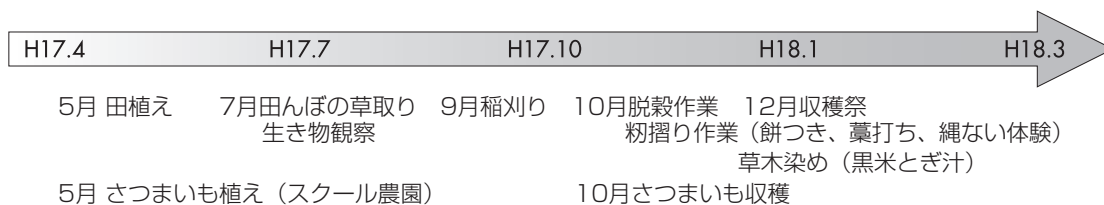
（NPO法人朽木針畑山人協会や地域の方の協力）

12月 収穫祭

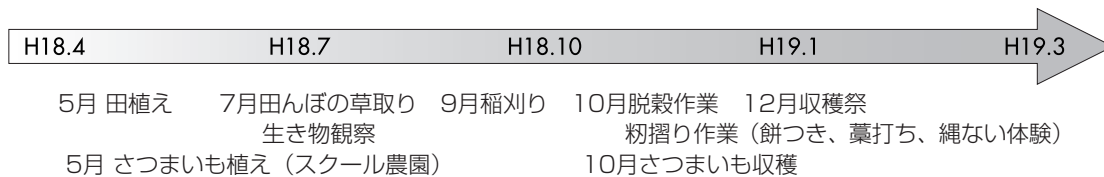
（NPO法人朽木針畑山人協会や地域の方の協力）



〈17年度〉



〈18年度〉



7. これまでの成果

取り組み実績から、子どもたちの生活習慣に少しずつ改善が見られるようになった。

例えば、好き嫌いが少なくなったこと。スナック菓子を食べることを控えるようになったこと。残飯、残食が減ってきてきたこと。作物を大切に育てようとする意識が少しずつ芽生えつつある。

8. 今後の構想、課題

他の小学校では、米に関する対象学年は5年生となっているが、本校は全学年での取組であるので、児童にとっては計画・行程がワンパターンと感じられがちであり、毎年工夫改善の必要がある。

また、スクール農園でのサツマイモ作りは、ネットを張って防護策を講じているが、新芽が出る頃には、イノシシ等により食い尽くされており、作物の種類の変更やさらなる対応策を講じなければならない。

9. その他

17年度

4月天然わさび採り

5月山菜採り・林業体験（県林業課）

ふれあいサロン（地域の皆さんと交流（食事の準備のお手伝いや針焔の自慢や食についての調査とゲーム））

18年度

4月天然わさび採り（わさび漬け体験）

5月山菜採り

9月栃の実拾い（京都府美山）

1. 取組主体

名称：諫早市立飯盛東小学校
 担当窓口：担当課（者） 指方 昌昭
 住所：長崎県諫早市飯盛町中山653番地
 電話：0957-48-0012・FAX：0957-48-0959
 E-mail：e-iimorihigashi@isahaya-snet.ed.jp
 団体等の種類：学校
 構成員数：全校生 398人
 連携している団体等の有無：有・無
 →（有の場合）連携している団体の属性（複数回答可、主な団体等のみ）
 市町村、学校、農林漁業者、JA、その他（ ）

2. 地域の特色

田畑が多く周囲を山と海に囲まれていて、馬鈴薯や人参の生産を中心とした専業農家もある。しかし米づくりを経験したことがある子どもは少ない。

3. 取組開始時期・経緯

米づくりの取組みは、10年以上前から行っている。これまで5年生が中心に行ってきたが、昨年度より全校あげて取り組んでいる。

4. 目的（目標）

- ・米づくりに関心を持ち、作物を丹精込めて育てようとする心情を育てる。
- ・共同作業において、互いに協力し、助け合おうとする心情を育てる。

5. 対象作物・参加者・経費

〈対象作物〉

米、野菜、果実、畜産物、魚介類、きのこ、その他

〈参加者数〉

H17 全校児童（407名） 支援者：保護者（80名）、ゲストティーチャー（10名）

H18 全校児童（398名） 支援者：保護者（30名）、ゲストティーチャー（7名）8/31

現在

〈経費〉

10万円（諫早市の郷土愛学習活動事業より）

6. 具体的な取組内容

概要（関係者の連携方法・地域との関わり等含む）

- ・ 5月 お米の勉強会（農政事務所へ依頼）
塩水選、もみまき（JA指導員へ依頼）
- ・ 田おこし、しろかき、田植え、除草作業、稲刈り、脱穀、もみすり、精米、餅つきに関しては、保護者へ支援を依頼し打ち合わせを行い、実施している。
- ・ 消毒に関してはJAに、水の管理に関しては地域の方をお願いしている。

〈17年度〉

- 5月 お米の勉強会、塩水選、もみつけ、もみまき
- 6月 田おこし、どろりんどッジボール、田植え
- 7～8月 除草、たにし取り
- 9月 かかしコンクール
- 10月 稲刈り、脱穀
- 11月 もみほし、もみすり、精米、餅つき

〈年間カレンダー〉

別紙参照

〈18年度〉

- 6月 どんごりレー
 - 11月の餅つきが12月へ
 - 12月 子どもたちによる米の販売
- あとは、17年度に同じ

7. これまでの成果

- ・ 17年度から全校で取り組むようになり、米づくりとの関わり（塩水選、もみつけ、もみまき、水やりなど）が増えたことで、農家の苦労を実感できるようになった。
- ・ 異学年との活動ができたことで、下学年への思いやる気持ちを持てるようになってきた。
- ・ 自分たちで作った米を餅にして食べることで、収穫した時、食べた時の感動が大きかった。

8. 今後の構想、課題

- ・ 支援者の中には、米づくりの未経験者が多いので、具体的な支援（活動）について、打ち合わせをしっかりと行っていきたい。
- ・ 農機具を持っている保護者が少ないので、今後のことも考えながらお願いしていかなければならない。

月の水面農園 年間計画 *実施日

*日時	活動	活動内容	該当学年	指導・支援者	
5月	第1回打ち合わせ	・顔合わせ・年間計画について	—	関係者	
	17 お米の勉強会	・食糧事務所の方から、お米の歴史や種類、育て方などについて説明を受ける。	5年	食糧事務所	
	26 塩水選もみつけ	・塩水でもみを選ぶ ・農薬につける(一晩) ・毎日水を替える	5年	農協指導員 G T等	
	29 もみまき	・育苗箱に新聞紙をしき、育苗土を入れ、均等にならす。(5/30) ・農薬を灌水させる。(5/31) ・厚めに覆土し、育苗シートをかぶせる。(6/1)	5年 3年	農協指導員 G T等	
6月	2 苗広げ			職員	
	3or4 田おこし	・田の土を起こす	—	後田正寿さん	
		水遣り	・苗への定期的(朝・昼)水遣りと観察	5年 1 2 3年	—
	16 しろかき(あぜぬり)	・田に水を入れ、土を砕き平らにする ・どろりんドッチボール ・(土手を作る)	5年 2・4年	—	
	17or18		・しろかきの仕上げをしてもらう	—	G T等
		第2回打ち合わせ	・田植え、除草について	—	関係者
	21 田植え	・田に苗を植える	5年 4・6年	G T等 保護者	
7月	18 除草	・田の草を取る	5年	—	
8月	21 除草 害虫防除	・田の草を取る ・テープ、防鳥網張り	5年 (希望学年)	G T等 保護者 教職員	
		病害虫防除	・薬剤散布	—	G T等
9月	11~15 かかしたて	・かかしコンクールで各学級で作ったかかしを発表する。 ・かかしを田に立てる	全学年 (立てるのは5年生)	—	
		第3回打ち合わせ	・稲刈りについて	—	関係者
10月	13 稲刈り	・稲を刈り取る ・稲を束ね、稲架けにかけて乾燥する	全学年	市役所農林振興課 G T等 保護者	
	下旬	脱穀	・稲穂から実をとる	刈った一部を5年生が学校で行う	G T等
11月	上旬	もみほし	・もみを乾燥させる	—	
		もみすり	・もみを玄米にする		
	中旬	精米	・玄米を精米する		
		第4回打ち合わせ(餅つき準備)	・餅つき大会、収穫祭について ・薪集め、用具借用	—	関係者
12月	上旬(4or5) 餅つき 収穫祭	・もち米をつく ・餅を丸める	全学年	G T等、市役所農林振興課、保護者、老人会	
12月	×	反省会	・一年間の反省をする	—	関係者

1. 取組主体

名称：山鹿市立山内小学校

担当窓口：担当課（者） 担当教諭（小笠原）

住所：山鹿市鹿央町梅木谷245

電話：0968-36-2255・FAX：0968-42-0211

団体等の種類：学校

構成員数：全校生 59人

活動内容を紹介するHP、情報誌等の有無：(有)・無

「育友会新聞「やまびこ」」（児童・地域に配布）

連携している団体等の有無：(有)・無

→（有の場合）連携している団体の属性（複数回答可、主な団体等のみ）

(市町村)、学校、農林漁業者、JA、(その他)（育友会（保護者会））

2. 地域の特色

豊かな自然環境にめぐまれている農業地帯であるが、兼業農家が多く、児童も農作業に触れあうことがあまりない。

3. 取組開始時期・経緯

平成元年に「ジュニア農業体験学習指定校」として指定されたことをきっかけとして実施されている。

4. 目的（目標）

身近な自然や環境にふれる活動を通して、自然を愛し、環境に優しい心を育てる。

5. 対象作物・参加者・経費

〈対象作物〉

(米)、(野菜) 果実、畜産物、魚介類、きのこ、その他

→具体的な作物名・種類（コメ、さつまいも、キュウリ等）

〈参加者数〉

全校児童59名（平成17年・18年） 職員14名

〈経費〉

80,000円 全額市からの補助（学童農園設置補助金）

6. 具体的な取組内容

概要（関係者の連携方法・地域との関わり等含む）

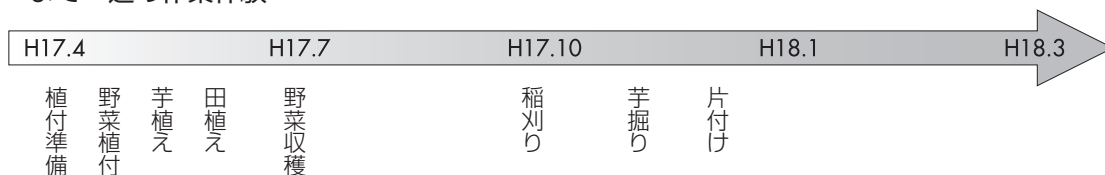
学校が中心となって、市・育友会と、計画策定にあたって話し合いの場を設定し調整している。栽培作業実施時には、育友会と連携し、技術的な指導を受け、植え付け準備から植え付け後の収穫までの間管理している。

学級ジュニア農園については、1年から6年まで各学年で決めた作物を栽培することになっている。

また、収穫後の野菜等については、各学年の行事で使用したり、学校給食（自校方式）に取り入れている。

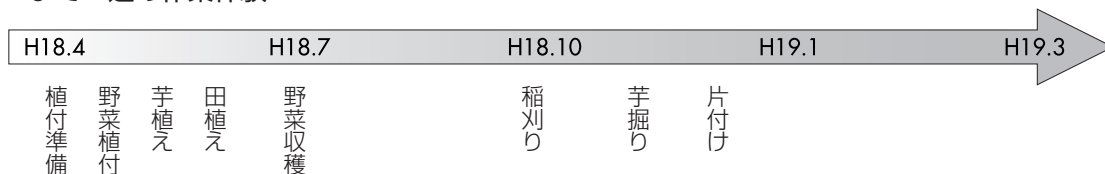
〈17年度〉

肥料やり、畝作り、マルチはり、植え付け、毎朝の水やり、草取り、追肥、芽かき、収穫まで一連の作業体験



〈18年度〉

肥料やり、畝作り、マルチはり、植え付け、毎朝の水やり、草取り、追肥、芽かき、収穫まで一連の作業体験



7. これまでの成果

- ・1年から6年までの児童を、縦に割ったグループ編成での活動としていることから異学年間のつながりが強くなった。
- ・毎朝、ジュニア農園への水やりを積極的に行なう姿が見られるようになり、作物を育てることの楽しさや、難しさを体験することができた。
- ・収穫した作物を調理する学年やクラブでの活動もあり、育てたという達成感を味わうことができた。

8. 今後の構想、課題

- ・児童の減少に伴い、運営や管理（除草作業含む）が困難になっている。
- ・各学年での夏野菜の収穫時期が夏休みと重なり、人集めに苦労する。

その他の事例

(2) 市町村による取組



1. 取組主体

名称：浅川町中央公民館

担当窓口：担当課（者） 緑川 重義

住所：福島県石川郡浅川町大字浅川字背戸谷地143-5

電話：0247-36-2134

E-mail：asacou@sweet.ocn.ne.jp

団体等の種類：市町村

構成員数：1人

連携している団体等の有無：有・無

→（有の場合）連携している団体の属性（複数回答可、主な団体等のみ）

市町村、学校、農林漁業者（農業経営者クラブ）、JA、その他（ ）

2. 地域の特徴

阿武隈山地に位置する花火で有名な町。

3. 取組開始時期・経緯

取組開始時期：平成9年頃から

経緯：キャンプや山登り等町内の子供達の交流が中心の取組であり、その中に農業体験も取り入れ、子供達の社会教育の一環として始まった。

4. 目的（目標）

学校外事業に参加する。少年の体験活動の場を提供する。浅川町の文化、自然、産業などについて学習する。野外活動を通して、自主性、自発性を養い、友達間の交流を図る。

5. 対象作物・参加者・経費

〈対象作物〉

米、野菜、果実、畜産物、魚介類、きのこ、その他

〈参加者〉

平成18年は49名。毎年50名くらい。町内の小学3年生から6年生を対象。

〈経費〉

年間経費額：22万円

経費の負担者：行政と参加者で22万円

参加者負担：あり 負担額：年間1人千円（キャンプ等、特殊なものは別途負担あり）

行政からの支援：あり

支援額：11万（事業名：チャレンジ教室）

6. 具体的な取組内容

概要（関係者の連携方法・地域との関わり等含む）

取組内容

子供達が春は田植えを行い、秋は稲の成長を観察して稲刈りを行い収穫の喜びを味わう。収穫した米を使用してもちつきを行いみんなで食べる。浅川町の青年農業者で組織する農業者クラブが農業体験の指導、生育期間中の管理を行っている。

関係者の連携方法：公民館が参加者及び農業者クラブの調整を行い、体制を整えている。

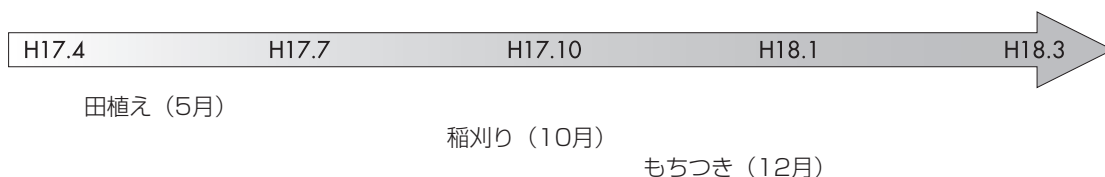
また、農業者クラブと1年間の水田管理の委託契約を結んでいる。

農業者クラブは、田植え・稲刈りの指導、委託契約による水田管理。

参加者を集める方法：各小学校にチラシを配付して募集を図っている。

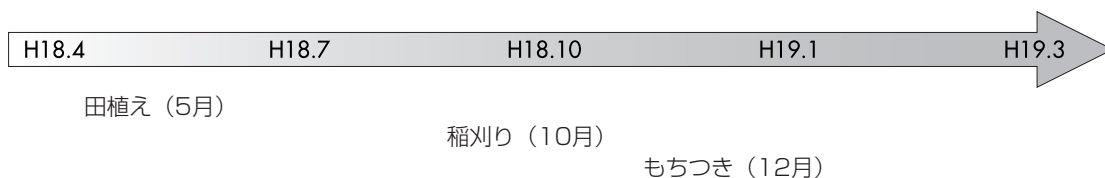
〈17年度〉

平成18年とほぼ同じ



〈18年度〉

春は田植えを行い、秋は稲の成長を観察して稲刈り体験。（別紙参照）



7. これまでの成果

- 農作業体験に対し、生き生きと行動している。
- 一年単位で募集するが、2年、3年と継続して参加する子供が多い。
- 様々な農作業を体験するので、子供達は農業に関心を持つようになった。

8. 今後の構想、課題

チャレンジ少年教室だけでも年8回、その他にも事業を抱えているので限界があり、プログラムに変化をつけられずにいる。内容のマンネリ化が課題。

子供達が仲間と一緒に行動することと継続していくことが大事である。規模的には現在の50人というのがちょうど良い。

農地が借りられなくなったら農業体験ができなくなることを懸念している。

平成18年度 チャレンジ少年教室年間計画表

回	月	活 動 内 容	場 所
1	5月20日(土)	〔開講式〕 公民館長講話 〔田植え、豚汁を食べよう〕 内 容 活動推進事業の主旨、学習内容の説明 田植えを経験する。	城山 実習田
2	6月17日(土)	〔異世代間交流を楽しもう〕 内 容 昔話、伝承玩具製作・遊びをもって 交流を図る。	町公民館
3	7月31日(月) 8月1日(火)	〔野外活動を楽しもう〕 内 容 野外活動や野外炊飯、集団生活の中で 社会性を身につける。 キャンプをとおして自然を楽しむ。	郡山 自然の家
4	9月16日(土)	〔自然を楽しもう〕 内 容 高山植物等を観察しながら自然にふれる	裏磐梯
5	10月14日(土)	〔稲刈りをしよう〕 〔ふるさとの野山を探索しよう〕 内 容 春に植えた苗の成長を観察し秋の収穫 の喜びを味わう。城山に登って遊ぶ。	城山 実習田
6	12月16日(土)	〔もちつきをしよう〕 内 容 収穫した米を使ってもちつきを行い、 みんなで食べる。	町公民館
7	1月20日(土)	〔スケートを楽しもう〕 内 容 初歩的なスケーティングを学習する。	石川町 梅畑レークサイド センター
8	2月17日(土)	〔閉講式〕 公民館長 〔エアロビクス教室 〕 内 容 エアロビクスを楽しみ年間の反省と次年度 に向けた課題と関係者へのお礼。	町公民館

1. 取組主体

名称：大門地区活性化推進会議

担当窓口：担当課（者）常陸太田市役所産業部農政課農林係

住所：茨城県常陸太田市金井町3690

電話：0294-72-3111内線243

団体等の種類：市町村

構成員数：10人

連携している団体等の有無：有・無

→（有の場合）連携している団体の属性（複数回答可、主な団体等のみ）

市町村、学校、農林漁業者、JA、その他（製造業者）

2. 地域の特色

中山間に位置し、そばや大豆、自然薯の栽培をしている農村地帯で、高齢者世帯が多く、近年後継者不足や耕作地の荒廃化が懸念されている。

3. 取組開始時期・経緯

耕作地の荒廃化が懸念されていたため、耕作地を有効利用し体験の場を提供するため、市からの働きかけにより平成15年度から大門地区活性化協議会を発足。

4. 目的（目標）

都市住民との農業体験を通じた交流を図るとともに、食や農業に関する理解を深めることにより賑わいのある地域をつくる。

5. 対象作物・参加者・経費

〈対象作物〉

米、野菜、果実、畜産物、魚介類、きのこ、その他

→具体的な作物名・種類（青大豆）

〈参加者数〉

一般消費者（県内、県外）

平成16年度 39名（内子供9名）

平成17年度 29名（内子供4名）

平成18年度 30名（内子供3名）

〈経費〉

約700,000円（参加者負担1口 8,000円、常陸太田市からの補助金535,000円）

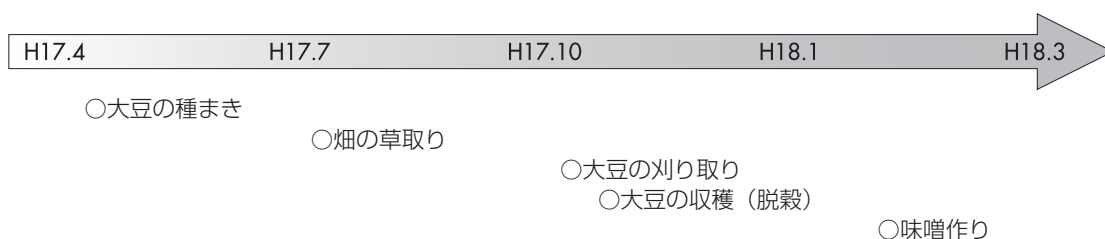
6. 具体的な取組内容

概要（関係者の連携方法・地域との関わり等含む）

- ・市が大門地区活性化推進会議を開催し農業体験推進事業計画を立案。
- ・市で広報誌、新聞等を活用し参加者を一般募集をする。
- ・大門地区活性化推進会議（地域農業者）がほ場の管理、栽培等の指導者となる。
- ・ほ場は農家から大門地区活性化推進会議が借り上げる。
- ・味噌作りは、ヨネビシ醤油株式会社において指導のもと作る。

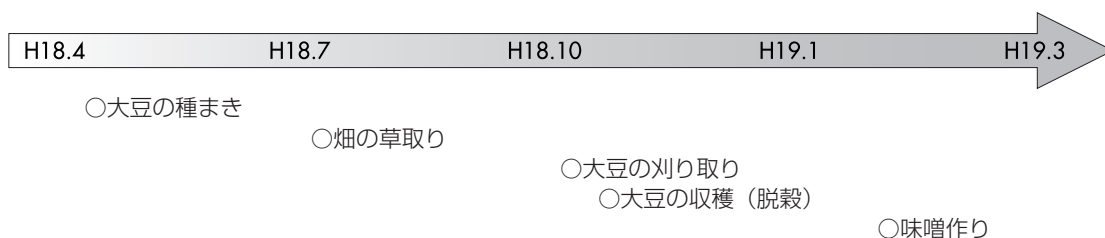
〈17年度〉

青大豆の栽培とその青大豆を使った味噌づくり体験



〈18年度〉

青大豆の栽培とその青大豆を使った味噌づくり体験



7. これまでの成果

- ・都市住民との交流により、地域での賑わいが図られた。
- ・家族での参加により家族間での絆が深まった。
- ・自分で栽培や加工することにより、安全で安心な食や、農業への関心が深まった。

8. 今後の構想、課題

受け入れ体制（団体）の育成

- ・情報発信の整備
- ・地域への経済効果
- ・他関係機関との連携の構築

1. 取組主体

名称：昭島市

担当窓口：担当課（者） 昭島市市民部産業振興課

住所：東京都昭島市田中町1-17-1

電話：042（544）5111

団体等の種類：市町村

構成員数：32人

活動内容を紹介するHP、情報誌等の有無：有・無

HPアドレス：www.city.akishima.tokyo.jp/

連携している団体等の有無：有・無

→（有の場合）連携している団体の属性（複数回答可、主な団体等のみ）

市町村、学校、農林漁業者、JA、その他（昭島市米生産者組合）

2. 地域の特徴

市域ほぼ全域が市街化区域に属し住宅地の中に農家が点在する、農地面積も減少し、高齢化の状況にある。その中で稲作は9haの作付けがある。

3. 取組開始時期・経緯

平成14年から開始。平成7年から米政策の変更が見られ、市内の米生産農家にとっても変化がでた。平成10年に昭島市米生産者組合が設立され、学校給食米に供給したり、産業まつりでの販売、昭島産だんごの原料の米粉の供給など事業展開を図った。このような中、米生産や都市農業への理解を深めるため、親子による体験農業教室の開催に至った。

4. 目的（目標）

農家との交流及び米生産や都市農業への理解を深め、消費者・市民とふれあう都市農業の推進を目的としている。併せて、市内米生産のPR、水田景観の保全の推進を兼ねる。

5. 対象作物・参加者・経費

〈対象作物〉

米、野菜、果実、畜産物、魚介類、きのこ、その他

→具体的な作物名・種類（キヌヒカリ）

〈参加者数〉

市内在住で小学生を含む親子20組

14年度24組の親子

15年度20組の親子

16年度22組の親子（49人）

17年度22組の親子（45人）

18年度20組の親子（46人）

〈経費〉

80,000円

- ・参加費1組*2,000円
- ・市補助金（消費者・市民とふれあう都市農業推進事業補助金）を活用。当該補助対象事業経費の2分の1以内とし、但し予算の範囲内とする。

6. 具体的な取組内容

概要（関係者の連携方法・地域との関わり等含む）

昭島市米生産者組合定期総会及び役員会において、事業実施の確認等を行う。

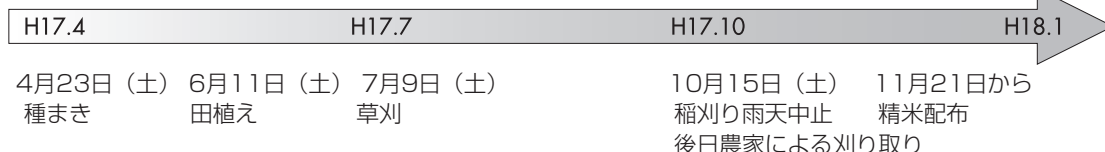
参加募集は市広報紙で行う。（事務局は市産業振興課）

〈17年度〉

4月1日号市報で市内在住の小学生を含む親子20組を募集し、米生産者組合員農家の指導のもと、体験作業を年間カレンダーにより行う。

できた米は、農家が自家精米し、参加者に配分する。

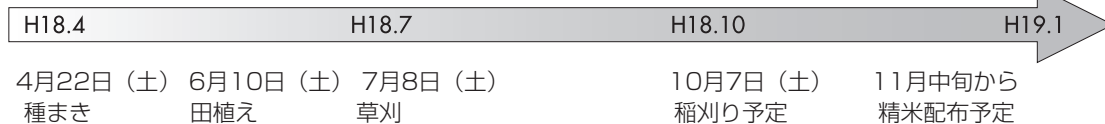
また、バケツ稲づくりセットを配布し、参加者が家庭で稲の生育過程の観察を行う。



〈18年度〉

4月1日号市報で市内在住の小学生を含む親子20組を募集し、米生産者組合員農家の指導のもと、体験作業を年間カレンダーにより行う。

また、バケツ稲づくりセットを配布し、参加者が家庭で稲の生育過程の観察を行う。



7. これまでの成果

平成14年度から昭島市米生産者組合主催親子米づくり教室を開催しているが、アンケートや実際の体験から、作業の楽しさ、田や水路での生き物とのふれあい、自分で作った米

を食べる喜び、天候による作業の難しさなど様々な、貴重な体験学習であった旨の感想があり、体験を通じた農業と主食たる米への理解に十分な成果が上がっており、事業継続の要望が強い。

水田のある景観や、水辺のふれあいへの理解が促進されたと考える。

また、学校給食米の供給、直売所、産業まつり等での販売を通じて市内産米の普及PRができています。

8. 今後の構想、課題

市民とふれあう都市農業を推進する事業として、一定の成果が上がっていると引き続き推進していきたい。

9. その他

作業風景等は昭島市HP (<http://www.city.akishima.tokyo.jp/>) の「産業」から「農業に関すること」から「お知らせ」のなかの「農業体験事業」で詳細が掲載されている。